

<総合人間学部言語文化学科>

国語教職課程においては、日本語の十分な口頭能力・文章表現力を持ち、かつ言語の背景にある日本文化の指導が可能な教員の養成を目指す。日本語は日本国民において思考の源であり、豊かな人間性を育む土台となるべき母語である。本学科のカリキュラムでは、①日本語を世界の一言語として捉えることのできる言語学的分析能力を高め、母語の重要性に気付かせる、②現代日本語のみならず、古典に触れることで、日本文化と日本人の「こころ」を理解する、の2点を重視している。このようなカリキュラムの特色を生かし、今後の日本社会の多文化化に対応できる、日本語および日本文化の指導能力を持つ教員の養成を目指す。

英語教職課程においては、英語に関する言語・文化の知識と、異文化間コミュニケーションのための英語力を備えた教員の養成を目指す。英語は英語圏の言語であると同時に、アジアをはじめとする多文化社会においては共通語としての役割を担う場合が多い。本学科のカリキュラムでは、その両面を意識し、英語圏の文化を学ぶことができると同時に、異文化と向かい合うために必要な英語力、特に英語で説明する力、描写する力、意見を述べる力の育成を重視している。また、常に英語力の研鑽に励むために生涯学習も視野に入れ、自らの英語学習を設計・運営する能力の育成にも力を注いでいる。このようなカリキュラムの特色を生かし、今後の日本社会に必要な英語による異文化コミュニケーション能力を備えた教員の養成を目指す。